

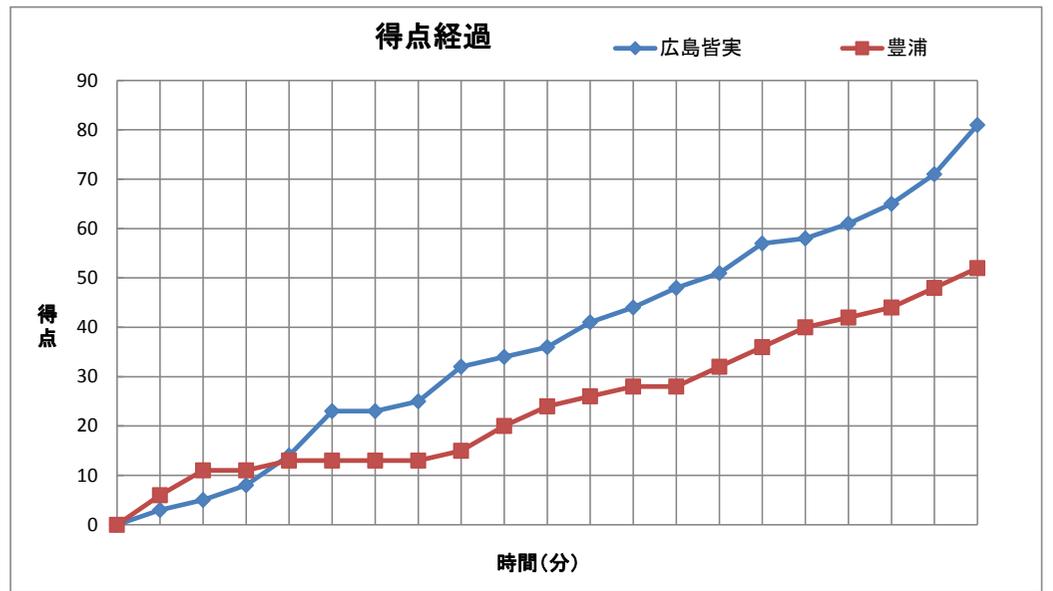


第66回中国高等学校バスケットボール選手権大会

0

個人トータル表

男子		令和4年6月19日 14:10 開始													
決勝		広島県立総合体育館グリーンアリーナ M													
◎ 広島皆実 (広島県)	81	<table border="1" style="margin: auto;"> <tr><td>23</td><td>1st</td><td>13</td></tr> <tr><td>13</td><td>2nd</td><td>11</td></tr> <tr><td>21</td><td>3rd</td><td>12</td></tr> <tr><td>24</td><td>4th</td><td>16</td></tr> </table>	23	1st	13	13	2nd	11	21	3rd	12	24	4th	16	52 豊浦 (山口県)
23	1st	13													
13	2nd	11													
21	3rd	12													
24	4th	16													
番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則	番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則		
* 4	中水 元基	18	4	2	2	1	* 4	山本 昶 勲	2	0	0	2	2		
5	大江 優貴	-	-	-	-	-	5	濱田 旭飛	-	-	-	-	-		
6	中谷 颯良	-	-	-	-	-	* 6	篠原 迅	11	1	4	0	3		
7	土肥 映斗	4	0	1	2	0	7	山村 恭一朗	0	0	0	0	0		
* 8	大福谷 翼	8	0	3	2	0	8	中田 晴也	-	-	-	-	-		
9	野上 岳	-	-	-	-	-	* 9	山本 爽太	10	0	4	2	4		
* 10	小田 悠人	10	1	3	1	3	10	永原 京真	-	-	-	-	-		
11	上本 起史	-	-	-	-	-	11	原 総一朗	-	-	-	-	-		
12	谷本 寿成	-	-	-	-	-	* 12	坪井 遥生	16	0	8	0	4		
* 13	齊藤 拓真	6	0	3	0	2	13	本田 蒼生	-	-	-	-	-		
14	武田 璃玖	-	-	-	-	-	14	安永 昊太郎	-	-	-	-	-		
* 15	中村 英司	35	1	13	6	0	15	梅田 眺希	13	1	4	2	0		
16	平田 貴一	-	-	-	-	-	16	高橋 悠次	-	-	-	-	-		
17	石丸 陽生	-	-	-	-	-	* 17	熊本 志叶	0	0	0	0	5		
18	松井 颯之輔	-	-	-	-	-	18	安達 伊吹樹	0	0	0	0	0		
コーチ	藤井 貴康					0	コーチ	枝折 康孝					0		
Aコーチ	横田 学						Aコーチ	八色 健太							
合 計		81	6	25	13	6	合 計		52	2	20	6	13		
<p>主審: 橋本恵一 副審: 今泉雅敬 副審: 大嶋将之</p>															



CTO	1・2P		3・4P		OT1	OT2	OT3	OT4
TeamA	19:37	:	:	:	:	:	:	:
TeamB	14:55	:	26:39	:	:	:	:	:

第1ピリオドスターティングメンバーは、広島皆実#4, 8, 10, 13, 15, 豊浦#4, 8, 9, 12, 17。
 広島皆実は一ハーフコートマンツーマン、豊浦は3-2のマッチアップゾーンから試合開始。広島皆実は#15, 4のドライブインやオフェンスリバウンドから相手のファールを誘いフリースローを獲得し、流れを掴む。さらに、激しいディフェンスから相手のターンオーバーを誘発し、そのまま速い展開で得点を量産し、流れを大きく引き寄せる。一方豊浦は立ち上がりから、緻密なセットプレーからズレを作り、#6の連続得点や12の個人技で得点するも、シュートの精度を欠き苦しい時間帯が続く。1ピリオドは豊浦13点、広島皆実23点で終える。
 2ピリオドディフェンスは両チームとも変わらず、豊浦が3-2ゾーン、広島皆実がマンツーマンディフェンスを展開する。両チームとも思い切りの良いアウトサイドシュートを放つも得点に繋がらず、両者集中したディフェンスが目立つ時間帯が続く。このピリオド、先に流れを掴んだのは広島皆実。#15の高さを生かした力強いドライブでバスケットボールカウントを含めたゴール下での得点を重ねる。さらにゾーンディフェンスの隙間をついて#4が3ポイントを成功させ、一気に突き放しにかかる。しかし、豊浦も負けじと#15の3ポイントシュートや#12のペイントでの得点で追い上げにかかる。前半を広島皆実36点、豊浦24点で終える。
 3ピリオド後半開始早々、広島皆実の#4の連続3ポイントや#15のミドルシュートを沈める。シュートが外れても力強いオフェンスリバウンドでセカンドチャンスは次々とものにする。豊浦も#12ドライブ、や#9の連続ミドルシュートで繋ぐ。豊浦は第3ピリオド残り3:21、点差を18点とされ、後半1回目のタイムアウトをとり、流れを切ろうとする。しかし、再開後も広島皆実の#10の3ポイントや#15のドライブが止まらない。加えて#8の速攻からの得点などで点差を21点とする。
 4ピリオド豊浦はオールコートプレスディフェンスで相手のミスを狙うが広島皆実#13が落ち着いてボールをコントロールし、#4の3ポイントや#15のペイントでの得点につなげる。豊浦は#12の多彩なミドルシュートなどで追い上げを図り、最後まで喰らいつく。広島皆実は盤石の試合運びで点差を広げ、最終スコアは広島皆実81点、豊浦52点で試合を終えた。広島皆実が3大会連続6回目の中国チャンピオンに輝いた。チームの司令塔である梶谷をワールドカップ予選アジア大会出場のため欠くなか、堅守速攻・粘り強く力強いペイントでのプレーや強靭なリバウンドを40分間やり続けた。豊浦も多彩なスクリーンプレーなどでじっくりと得点機会を狙うチームスタイルを貫き、随所で会場を魅了するチームプレーを見せた。両チームともにそれぞれのチームスタイルを存分に発揮し、全国大会での活躍を期待したい。

戦評: 山本風太 記録: 広島なぎさ